



Q、高齢の単身世帯の生活扶助費は。

A、令和7年4月1日の生活保護世帯数が660世帯、世帯員数は771人です。世帯員の65歳以上の割合は58.9%で454人です。生活保護を受けている高齢者数は、令和5年4月1日から令和6年4月1日の間に16人増加し、その後、令和7年4月1日までの間に28人減少しています。

生活保護制度の現状は

Q、生活保護世帯数、世帯員数のうち、65歳以上の高齢者の割合及び近年の推移は。



二次元コードからスマホで質問の内容や録画が見られます。

いのうえ
とおる
井上 徹議員



環境問題は市民生活に多大な影響と不安を招く

Q、町並み観光やイベント等のポイ捨てごみは看過できないが、この問題に新たな検討をされてきたか。

A、現在の市の取り組みとして、イベント時に人の集中する場所へのごみ箱設置のほか、地域住民等によるごみ拾いボランティアのご協力をいただいています。また、イベント時以外では、ごみ箱はごみを呼ぶためごみ箱の設置はせず、ごみは持ち帰っていただくという考えのもと、取り組んでいます。

いのうえ
としお
伊能 敏雄 議員



二次元コードからスマホで質問の内容や録画が見られます。

Q、市の対応や他市の取り組みを研究されないか。

A、ごみの収集の方策について、地域の皆様や事業者と話し合いを進めていきたいと考えています。

Q、千葉県許可の大崎地区残土埋立て場のフッ素検出問題はどの様になっているか。

A、千葉県は、土砂における基準超過範囲の詳細調査を実施した結果に基づき、事業者へ「基準値を超過した土砂を全て撤去し適正に処理するよう是正勧告を実施した」との回答でした。市としても、地域住民の意向を踏まえ、安全で安心して生活できるよう、引き続き県に要請していきます。

Q、神崎町大貫の鉛製品加工工場が地元で問題になっている。その状況を確認しているか。また、その対応はどうなっているか。

A、神崎町では騒音防止の指導を行っています。また、県では排水の検査を実施し基準値を超える鉛成分が検出されたため、排水の流出防止等の指導を行っています。香取市では被害報告や苦情等はありませんが、千葉県及び神崎町と情報共有を行い注視します。

利根川舟運と水の郷さわらの事業の取り組みは

Q、利根川舟運・地域づくり協議会の現状は。

A、当協議会は、利根川における舟運や水辺

A、65歳以上75歳未満は、月額6万9670円。75歳以上は、月額6万3890円です。

この額は生活費のみで、世帯の状況で、家賃、医療費、介護費などが計上されます。

Q、今後の高齢者の見通しは。

A、65歳以上の人口は令和3年をピークに減少し、令和22年には2万6173人となる予想です。75歳以上の人口はしばらく増加し、令和12年は1万5699人ですが令和17年には1万5483人へ減少する予想となっています。

Q、不正受給の件数と要因は。

A、令和6年度の不正受給件数は、14件です。主な理由は、収入の未申告となっています。

意見 市街地の市営住宅に関しては高齢者の入居希望をなるべく優先させてほしい。

家賃は安価であり、住宅扶助の金額を抑えることができる。高齢者にとっても、便利な市街地であれば移動などの負担を少なくできる。

Q、栗源保育所の現状は。

A、令和7年4月1日の在籍児童は55人です。園舎は昭和53年に竣工し、築47年が経過。また、昭和61年に4・5歳児保育室を増築し、築39年になります。園庭の一部が土砂災害警戒区域に指定されています。

Q、うみやま保育の制度について。

A、自然環境保育とは、千葉県の豊かな自然

空間を活用した地域活性化を図るため、平成20年に発足し、国の地方の元気再生事業の採択を受けモニターツアー等を実施して来ましたが、令和6年度以降は活動を休止しています。市としては、潮来市と連携し、両あやめまつり会場間のシャトル舟運行などの取り組みを始めるなど、今後も広域による舟運を含めた水郷地域の観光振興に取り組んでいきます。

Q、与田浦への出入り口の津宮新田地先水路と水門の現状と今後の見通しは。

A、水路及び水門を管理する香北土地改良区へ確認したところ、水門付近の土砂堆積については、取水に影響がないため浚渫を実施する予定はなく、水門の開閉装置の不備については、改修を検討しているとの回答がありました。

Q、川の駅・道の駅改修の工程や状況が利用者に見えない。対応策を講じるべき。

A、事業者に対し、お客様に分かりやすい表示を心がけるよう指示していきます。

意見 観光地に恥じない景観づくりに利害関係者等を巻き込むべき。また、公害的問題では、市民が不安にならぬ様、問題解決に当たっていただきたい。

自然環境や地域資源と関わる自然体験活動を通じ、子ども豊かな人間性を育み、心身の調和の取れた発達の基礎を培うことを目的に行われる保育を言います。千葉県では、自然環境保育認証制度、いわゆる「ちば・うみやま保育」を令和5年度から実施しています。

意見 崖の上に施設があり、近年の災害の状況などを考慮すると、不安がある。なるべく早く移設をするべきと思う。高齢者とは逆に子育ては自然の中で成長することが望ましいと思う。多古町では子育てに特化した支援住宅制度などもあるようで、既に満室となっている。こういった制度と、うみやま保育制度と連携させることでより一層の効果が現れると思われる。

Q、上下水道について、八潮市の事故発生後の対応は。

A、下水道管路の腐食の恐れのある19か所の目視点検を行いました。異常は見られませんでした。その後、国から特別重点調査の要請があった箇所の調査を行っています。上下水道の管路も、緊急点検を行いました。異常は見られませんでした。

Q、香取市において同様の事故が起こるリスクの高い場所は。

A、下水道の管路は計画的に点検を行っています。異常は見られませんが、甚大な被害を及ぼす恐れのある